



●書籍のご購入や内容等については最寄りの書店や発行元にお問い合わせ下さい



『今すぐ、実家を売りたい 空家200万問題の衝撃』

和田貴充 著

光文社 刊

定価 1,760円 (本体1,600円+税)

振興策に転換できる明るい見通しが得られる。

なぜ、人は親から引き継いだ空き家を放置するのか。この問題に本書は“心の問題”と回答する。故人への思い入れが家の整理を阻む。だから、倒壊寸前の空き家と獣害や犯罪を呼び込みそうな荒れた庭が近隣に迷惑をかけ、周辺の地価を下げるのではと心配しながらも、「遺品整理ができないから」「家の売却手続きをする時間がなく方法もわからないから」と理由を見つけては空き家をそのままにしてしまう。本書は、心の奥底にある親の家をなくすことへの抵抗感を軽視せず、それに寄り添い、気持ちの整理の仕方や親の家を活かす方法を教えてくれる。

管理されない空き家の所有者を固定資産税の軽減措置から外す改正空き家対策特別措置法が施行されたばかりだ。これからは空き家の放置が経済的リスクになる。立ち止まっている人の背中を押してくれる本書は、今多くの人に読まれるべき一冊だと思う。(日本農業新聞 齋藤 花)

総務省の調べでは、日本全国の空き家数は2018年に849万戸、空き家率が13.6%と、ともに過去最高だった。そして本書によると、野村総合研究所の予測では2038年の空き家総数が2,300万戸を超える可能性があるとのことだ。今後のさらなる少子高齢化と人口減を考えると、全国の住宅地が廃墟と化す未来が垣間見えるようだ。

本書は、そんな時代に生きる私たちのために、空き家の売買に必要な実務や空き家放置の危険性をわかりやすく解説してくれる。多くの空き家活用事例を織り込んだのが特徴だ。

大阪市城東区蒲生四丁目目で老朽化した長屋の一軒を現代風に改装したところ、カフェなどが集まる活況な町として蘇った話や、高知県の半島にある空き家を関西の企業が引き取り、釣り好きの社員が集う保養所にした話など、夢のあるエピソードが満載で、鬱屈した空き家問題を地域